

令和4年度第2回市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える課題

【日 時】令和4年7月7日（木） 18時30分 ～ 19時30分
【場 所】常盤ふれあいセンター
【出席者】○篠崎市長 ○（地区代表者5名） 常盤地区コミュニティ推進協議会会長：野村 隆 常盤地区自治会連合会会長：有馬 道男 常盤地区社会教育推進委員会会長：河井 譲治 常盤地区まちづくりサークル会長：山根 好子 常盤地区見守り連絡協議会会長：渡邊 直伸 ○総合政策部長 ○事務局（広報広聴課、常盤ふれあいセンター、地域支援員）
【概 要】1 開会 2 出席者紹介 3 意見交換・懇談 4 閉会
【意見交換・懇談】 ○ICTの活用による避難体制の確立について 【自治会連合会会長】 ・最近の予測不可能な気象現象、特に大雨等による災害の発生に対する不安がある。ICTの活用により、円滑で迅速な避難体制の構築により被災者ゼロの防災の確立が求められる。ちょっとした雨でも直ちに避難というやり方では、本当の災害時に特に高齢者は避難しないのではと思う。 ・警報を出す基準を明確にし、それを公にすることで、誰もが納得して避難できるようになるとよい。 ・常盤地区に絞った詳細な情報をICTを活用して発信してもらえないか。また、警報を出す場合にどこの地区に出すのかを細分化してほしい。 ・iPadを高齢者の支援者に持たせ、災害時に高齢者の避難に特化した情報を届けることができればよいのではないか。 ・ドローンを災害時の状況把握に活用してはどうか。 【市長】 ・スマートフォンがすべての世代に普及していることから、エリアメールやLINEな

どの色々なツールを使い情報発信している。市民の皆さんからは、防災ラジオの反響が良く、今年度は予算を増やし対応している。

- ・ ICTを含め色々な機器を使い、重層的に情報を届ける体制を整えていく。
- ・ 昨年から（避難情報の警戒レベルの色分けが）より分かりやすくなり、市としては赤になれば避難指示を出している。夜間に避難が必要になりそうな場合は、日中、避難指示がでる場合もある。避難指示が出る理由を市民の皆さまに説明し、理解していただくことが重要。
- ・ 防災に関しては空振りを恐れずに、素振りをつけていくという意識がある。防災メールには地域や地区を記載してあるが、わかりにくい面があるため、技術的に登録者の住所がわかれば区別していきたい。
- ・ 警報を出す基準は市で定めており、その基準を市民の皆さんに周知していく。
- ・ 災害時要援護者の避難プランを一人ずつ作っているがまだまだ完成している人は少ない。iPad等のタブレットを活用した避難情報の発信は持ち帰り検討する。
- ・ 成長産業創出の取り組みでの「ときチャレ」の実証実験に防災減災の観点からドローンを活用した提案を企業からもらっている。企業と連携し考えていきたい。

○彫刻を活用した観光振興について

【まちづくりサークル会長】

- ・ 宇部志民大学のOBであり彫刻清掃を10年継続している。「彫刻清掃」のボランティア活動を発展させ、“みるからふれる彫刻”を提案する。貴重な作品に堂々と触れられる魅力があり、清掃後に輝きを取り戻した作品を見て味わう達成感を得られる。清掃前にはふるさとコンパニオンさんのおもてなし心のガイドがある。
- ・ 彫刻清掃に加え、前日には作家のトークショーを行い、宇部の食や観光地めぐりを行ってはどうか。
- ・ コロナもあり世の中の動きも変わっている。UBE ビエンナーレは今までのやり方以外の事も考えていく必要がある。

【市長】

- ・ 課題は、宇部市民が彫刻に親しんでいるかということと、UBE ビエンナーレの情報発信の2点。
- ・ 各地区にUBE ビエンナーレの出品作品を置いてあるが、その維持管理を地区の小学生にお願いすることを考えている。多くの市民に彫刻に触れていただきたい。
- ・ 宇部市では以前、小学生がトーテムポールを作っていたが、そういった彫刻教育は宇部ならではの教育になる。
- ・ 広報戦略は、それぞれ皆さん個人のSNSにより情報発信をしてもらうことが重要と考えている。彫刻作家とのトークショーやツアーなどもやっていきたい。
- ・ 瀬戸内国際芸術祭を視察したが、ストーリー性があり見せ方が上手かった。ビエンナーレも行政だけで考えずに皆さまと意見交換し方向性を一緒になって考えていきたい。

- ・アウトドアメーカーのスノーピークの顧問の方を講師にお呼びし、宇部市の価値を見つめなおすことをテーマにした講演会を開催するので参加していただきたい。

○地域活動に必要な人材の確保について

【コミュニティ推進協議会会長】

- ・他地区は伝統ある行事があり自信を持ってやっているが、常盤には少ないため、今後盛り上げていきたい。
- ・行事、イベント等に精通した人材の紹介や派遣をしていただいてアドバイスをしてほしい。

【市長】

- ・各地区には色々な文化がある。今年度は、デジタル機器を活用して各地区を紹介する動画の制作、地域活動を紹介するポータルサイトの立ち上げを考えている。ポータルサイトには NPO の情報も掲載するので、各行事に精通した専門家を調べることができるものとなる。企画の相談等は地域支援員が窓口となるので気軽に相談してほしい。
- ・他地区の取り組みとして、厚南、小羽山のボッチャサロン、東岐波の総合型スポーツクラブによる地域の健康活動の推進、西宇部の VR の活用、神原の ICT 活用委員会がある。
- ・「地域活動の日」という制度を考えている。企業のノー残業デーを地域活動に参加する日に充てていただけないか、商工会議所等に協力をお願いしている。共働き世帯も地域活動に参加しやすい仕組みにしたい。今年度、1年をかけて仕組みを作っていきたい。
- ・地区の役員に同じ人が非常に多くの役職に付いている現状がある。自治会やコミュニティの役割や行政の役割を整理する必要がある。

○地域活動における ICT の活用について

【社会教育推進委員会会長】

- ・常盤地区の地域活動は対面で実施されているため、コロナ禍では活動ができなかったり、書面決議が多くなった。そこで、地域活動に ZOOM 等の ICT を活用することで、地域活動が継続できると思う。
- ・ICT 機器がふれあいセンターに設置されているが、デジタル機器の活用方法についての深い知識が地域にないので気軽に相談できる所が欲しい。デジタル機器を活用すると、仕事をしている若い方も参加しやすくなり、地域の人材発掘につながる。
- ・地区の方に、年月をかけてデジタル化の意識付けを進めたい。地域の情報の発信は地域の役目だと感じているため、地域支援員と協力してすすめたい。

【市長】

- ・LINE を使った情報共有の仕方、SNS を活用した地域の情報発信の方法、アプリの活用法等の講習会を予定している。

- ・ネイティブ宇部というアプリは、災害時に写真を撮って市の防災危機管理課に通報すれば、地図上で被災状況が確認できるものであるが、使い方がわからなければ意味をなさないため、その使い方も講習する予定。
- ・ICTの活用例をポータルサイトに載せるので見てほしい。また、市のアプリ等で使いにくい場合はすぐに伝えていただきたい。

○未来を拓く人を育むまちについて

【見守り連絡協議会会長】

- ・文系大学の選択肢が少ないため、優秀な人材が県外に流出していることを苦々しく感じる。
- ・山陽小野田市の山口東京理科大学や周南市の徳山大学が公立化し、地元の学生にも人気を博している。宇部フロンティア大学の学部を増設するなどして公立化するのは難しいのか。
- ・子どもたちが宇部に留まる環境を整える政策を応援したい。

【市長】

- ・大学の公立化は定着のための一つの手法ではあるが、子どもたちに働くという将来のビジョンを持たせることが重要と考える。
- ・昨年度からキャリア教育の一環として「みらいWalkers★UBE」を開催している。宇部市にどういった企業があり、どういった働き方があるかを紹介している。
- ・若い人が外に出ても戻ってくる仕組みを考えている。
- ・山口県は文系、特に若い女性の事務職が働く場所が少ないので、医療や宇宙、研究機関の未来型の新しい産業を誘致し、働く場所を増やしていく。
- ・宇部市には山口大学の医学部と工学部があるので医療や宇宙の分野の土壌がある。まずは、子どもたちへの種まきと魅力的な産業づくりに取り込んでいく。

○学童の運営について

【社会教育推進委員会会長】

- ・今年度から学童の運営事業者が市社協から地区の方に変わった。一般社団法人の設立を行ったが、費用の調達が難しかった。
- ・補助金の会計や給与の事務を事務員が一人でやっていて大変である。どこかで事務を一本化することができないか。

【市長】

- ・学童については、地域に甘えている現状があり、持続可能な仕組みとなっているとは思っていないので、抜本的に仕組みを考え直すことも検討している。
- ・市と社協で話していかないといけない問題でもある。地域の負担が減るようにしながらも持続可能な学童の仕組みを考えたい。こども未来部で対応する。